

請願第 3 号

右京小学校の存続を求める請願書(観光文教委員会付託)

平成 29 年 12 月 1 日受理

請願者 右京地区自治連合会長

外 1783 名

教育委員会は、本年 7 月 20 日、右京小学校会議室で PTA に対し、平城西中学校の敷地内へ小学校を統合する案を説明しました。しかし、右京地区住民は、学校規模適正イヒに伴う右京小学校の移転・廃校を容認できません。私たちが安心して子育て、生活できるよう、暮らしの中心である小学校を残してください。理由は以下のとおりです。

右京地区は昭和 46 年に関西文化学術研究都市の最初のまちとして開かれました。右京小学校は、町の中心として翌 47 年に開校しています。その後、周辺には平城西中学校、平城高校、東大寺学園、奈良大学、国会図書館など文教施設が充実しましたが、やはり子育ての中心は右京小学校なのです。

現在、住民の意見が反映されない市の計画により、地区内から幼稚園が失われ、小さい子供を連れたお母さんたちが急な坂を上り、交通量の多い道路を渡って隣の地区まで通園しています。この姿を見ていると、特に低学年の児童が、同じ道のりを通うことになるには不安があります。右京地区は安全に右京小学校に通えるよう設計された計画都市です。

小学校は、学びの場であるだけでなく、地域にとっては災害時の避難場所であり、保育園の運動会など、世代を超えた地域活動の拠点として使用頻度は非常に高くなっています。昨年、自治連合会で実施したアンケートでも、右京小学校存続を希望する声が多数を占めました。地域の高齢者にとっても、地域の宝である子供たちが集まる小学校は、かけがえのない存在です。

右京地区は、平城ニュータウンで最も古い町であるために、最も少子高齢化が進んでいることは事実です。そのため、現在、小学校の児童数は周辺地区より少なくなっています。ただ、これは他の地区より世代交代が早く起きている経過を見ているに過ぎません。実際、29年9月発表の行政区別年齢人口総括表では、0～4歳人口が5～9歳を上回り、子供の数は増加に転じています。この子供たちを地域で育てるために、右京小学校は必要なのです。

我々は、右京地区を挙げて、小学校の存続を請願します。